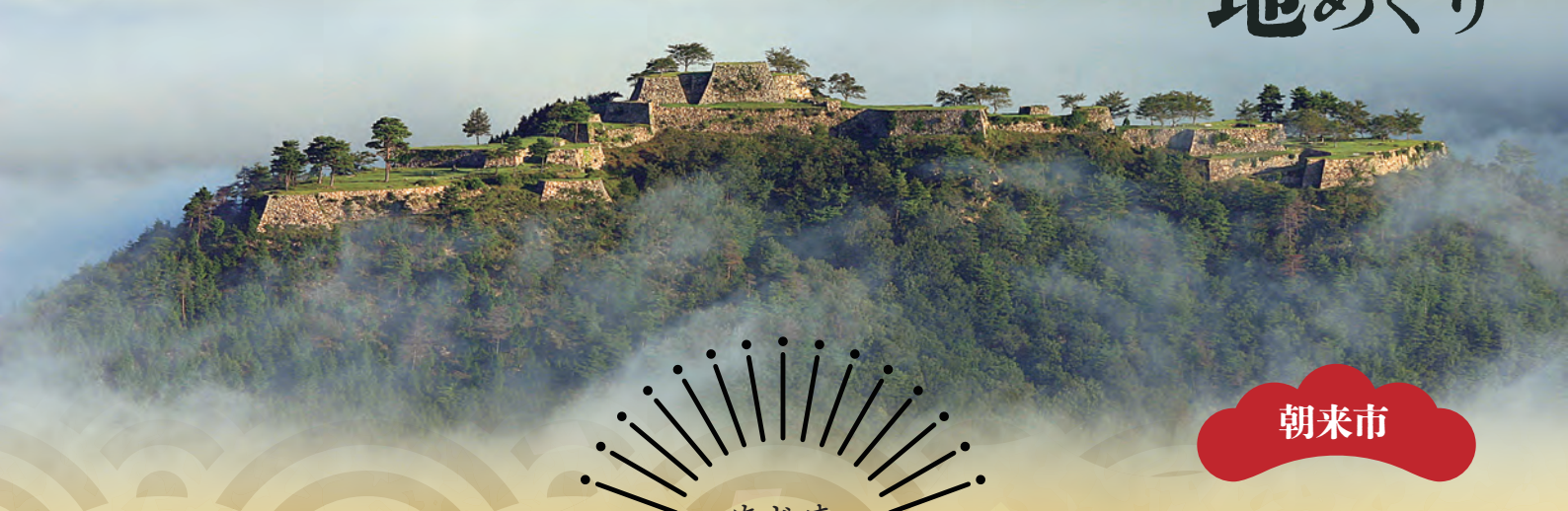


知れば知るほど奥が深い

豊臣秀長

兵庫県北部・但馬
ゆかりの武将

ゆかりの
地めぐり



たじま

豊臣軍となって、但馬国へいざ攻め入ろう

朝来市

城
攻
め

豊岡市

新温泉町

グルメ攻め

香美町

絶景攻め

養父市



豊臣秀長

秀吉の天下取りを支えた名脇役 豊臣秀長ってどんな人？

農民から天下統一を成し遂げた兄・豊臣秀吉の影に隠れて、これまでは日の目を見なかった弟・豊臣秀長。秀長は天文9年(1540)に尾張国(愛知県)で、秀吉の弟として生まれたとされます。元々は武将になる気はなかったといわれていますが、秀吉が織田信長の家臣として頭角を表すにつれ、兄とともに信長の家来となりました。それ以来、秀吉の右腕として、時には冷静な謀め役として、軍事・政務の両面で天下統一を支えました。

人柄も温厚で人望も厚く、「もしも秀長が長生きしていれば、豊臣の天下は安泰だった」と唱える人も多い実力者。秀吉が心を許せる数少ない人物のひとりで、四国攻めでは病床の秀吉に代わり、総大将として平定するなど、戦国武将としての能力は極めて優秀です。

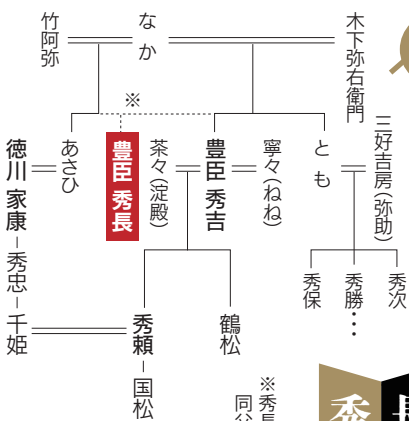
兵庫県北部・但馬との関わりは、但馬平定戦で但馬国の守護大名である山名氏を降し、但馬の経営を任せられたことに始まります。竹田城代、有子山城主となって但馬の安定に力を発揮しました。秀吉の陰に隠れがちであった秀長が一人前の武将として活躍し始めるのが、但馬及び山陰道の平定であり、この経験が後の秀長にとって大きな糧になったといえます。



秀長が城代となった竹田城跡(朝来市)



有子山城(豊岡市)は秀長の命により、石垣の城へと改修された



豊臣氏関係図

竹田城攻めの際の 兄・豊臣秀吉発給の制札

朝来市の法宝寺に残る制札は、室尾寺(廃寺)が資金を捻出して、豊臣軍の略奪から寺や身の安全を買い取ったもの。室尾寺があった場所近辺に但馬攻めの陣所が存在していた可能性が高いとされます。



法宝寺所蔵(朝来市指定文化財)

秀長エピソード

温厚・堅実な
秀長の人柄

元々は「長秀」だった!?

元々、織田信長の家来になった時は、木下小一郎長秀と名乗っていました。天正12年(1584)頃、「秀長」に改名したとされ、これは小牧・長久手の戦いにより、秀吉が信長の後継者として揺るぎない地位を築いたことから、当時の慣例として主君の名を上につけてきたと考えられています。秀長となったのは亡くなるまでの7年ほどで、当時の人にとって「長秀」の方が親しみがあつたかもしれません。

コツコツと貯蓄が趣味!?

派手好きで知られる兄の秀吉と違い、秀長は実直な人柄で知られています。晩年には寺社の力が強かった大和国を任せられますが、大きなトラブルもなく、実務能力も大変優れていました。秀吉にとりなしてもらったため、大名も秀長を頼りました。秀長が亡くなった際、居城であった大和郡山城には大量の金銀、銭、米が備蓄されていたと伝わり、堅実な人柄を物語ります。

秀長の但馬・山陰道平定の足跡

西暦	関連事項
1540年(天文9)	尾張国愛知郡中村(愛知県)に、豊臣秀吉の弟として生まれたとされる。いつ頃からは不明だが、兄とともに織田信長の家来となる。
1569年(永禄12)	但馬出兵。毛利氏からの要請で、信長は秀吉らを但馬に派兵。秀長も奮闘し、此隅山城など17、18あったとされる城を攻略して、生野銀山も制圧。
1573年(天正元)	秀吉が浅井氏の小谷城を攻め落とした功により長浜城主となる。秀吉の浅井氏攻略を支える。
1576年(天正4)	秀長の右腕となる藤堂高虎が家来となる。以後、但馬平定戦など、生涯に渡り主従関係が続く。

西暦	関連事項
1577年(天正5)	第1次但馬攻め。播磨国から一軍を率い、まずは岩州城を攻略し、次いで竹田城を攻め落とす。
1578年(天正6)	竹田城代となり、城の改修を指示する。明智光秀の援助のため、丹波国の黒井城攻めに参戦。翌年信長の命により、丹波国へ攻め入る。
1580年(天正8)	第2次但馬攻め。奪還された竹田城を再び落とし、但馬守護・山名氏の本拠地、有子山城を攻略。但馬国の統治を任せられ、有子山城主となる。
1581年(天正9)	鳥取城攻めに従軍。山陰道の平定に貢献する。その後、賤ヶ岳の戦いで活躍、但馬・播磨を拝領。

豊臣 秀長
(1540 - 1591)



但馬攻め



竹田城の城代として活躍 秀長の礎を築いた但馬平定

天正5年(1577)、毛利氏の播磨侵攻が激化するにあたり、織田信長の命を受けた羽柴(豊臣)秀吉は中国攻めを本格的に開始しました。弟・秀長も兄に従って播磨国に赴き、姫路城に入城。秀吉は播磨の平定、秀長は副将格として但馬及び山陰道の平定を任せられます。

『武功夜話』によると、まず重要な資金源となる生野銀山を確保するべく、国境の真弓峠を越えて侵攻し、岩州(いわす)城(朝来市山口)を攻め落とし、次いで、山名四天王のひとり、太田垣氏が守る竹田城に攻めかかります。羽柴方の攻勢で、竹田城は落城。秀長は竹田城代となり、まずは但馬攻めの土台を築くため、城の改修を指示しました。

竹田城代の秀長は、ここから縦横無尽に活躍します。隣国、丹波国の制圧に苦心していた明智光秀の応援に駆けつけたと思えば、北播磨の情勢が大きく揺らいだことで、秀吉の下へ帰還。三木合戦が終わり、播磨が安定すると、鳥取城制圧を目指すため、天正8年(1580)に再び、但馬攻めへと乗り出しました。北但馬の毛利派は秀長軍の攻撃に備えて、万全の防備を引いて待ち構えました。

しかし、秀長軍の大軍を目にした但馬勢はさしたる抵抗もできず、竹田城や但馬守護・山名氏の本拠地、出石の有子山(ありこやま)城が落城。戦後は但馬国の統治を任せられ、有子山城を石垣の城へと改修しました。

播磨・但馬の四方八方に敵がいた秀吉にとって、秀長の活躍は窮地を救ったといえ、但馬攻めは武将として秀長の大きな自信になったといえます。

天空の城として知られる竹田城跡(朝来市)生野銀山の支配権を巡り、攻防が繰り返された。



織田信長の貴重な資金源となった生野銀山(朝来市)



但馬山名氏の本拠地であった有子山城(豊岡市)

但馬に残る民話

おたんの手かけ松

鳥取城攻めに向かう秀吉軍が香美町村岡区高津に通りがかった時、盗賊の娘として「おたん」を捕えました。矢田川の岸辺で処刑されることになりませんが、娘は最後のお願として、川で身を清めることを申し出ます。娘が川に入るや否やその姿が見えません。すると、向う岸の松に手をかけて、「ここまでおいで!」と尻を叩いて、鳥取へと逃げて行ったそうです。今でも何代目かの松が残り、地域の昔話として語り継がれています。

●香美町村岡区高津

地元で伝わる
昔話

温泉城(ゆのしろ)と宴の清水

新温泉町湯にある標高338mの白毫山山頂に、温泉城跡があります。その昔、兵糧攻めを行うも中々落ちない温泉城を不思議に思った秀吉が調べてみると、城内には飲水が引かれているようでした。そこで家来を坊主に変装させ、山中の茶屋の老婆に、「おばあさん、こちらのきれいな水は、どこから出てくるのか?」と尋ねさせると、老婆は『宴の清水』という所から出てくると答えました。それを聞いた秀吉は水源を絶ち、温泉城を落とすことに成功したといえます。どのようにしてあんな高い山城に水を引いたのか、いまだに解明されていません。

●新温泉町湯/歌長

秀長が鳥取城攻めの土台を固める 羽柴軍、山陰道から因幡を攻略

鳥取城攻めのため、但馬及び山陰道を平定した秀長。息つく暇もなく、天正9年(1581)、秀長は秀吉に従い、毛利氏の山陰方面の東の最前線基地であった鳥取城攻めに取りかかります。鳥取城は前年、東からは秀長と宮部継潤の軍、南からは秀吉軍が攻め入り、城主である山名豊国が投降しましたが、降伏に反対する重臣たちが新たな城主として、毛利氏の名将・吉川経家を招き入れていました。

秀吉軍は播磨から北上して但馬に入り、小代谷(おじろだに)／香美町から氷ノ山を越えて、鳥取城攻めに向かったとされます。その時、激闘が起きたのが小代一揆です。小代の侍衆は信長に敵対し、第1次但馬攻めの際には、秀長軍の先陣であった藤堂高虎を小代谷の城山城で迎え撃ち、見事撃退しました。その後も抵抗を続けて毛利派の拠点となり、秀長にとって悩みの種となっていました。鳥取城攻めの際にも、小代衆は抵抗しましたが、秀吉の大軍の前に退散したと伝わります。

一方、秀長軍は但馬から船で日本海を西に進み、鳥取城に向かったとされます。どのようなルートを通ったかは定かではありませんが、地元では羽柴軍が香美町村岡区相岡(けびおか)から新温泉町の照来(てらぎ)盆地を通過したという伝承が残っています。相岡には豊臣軍が喉の乾きを潤したと伝わる「太閤清水」や、照来盆地にある多子(おいご)城を攻め落として新温泉町飯野に滞在したとも地元では伝えられており、周辺には秀吉にまつわる遺跡や説話などが数多くあります。その後、但馬を通過した羽柴軍は鳥取城を大軍で包囲し、見事攻め落としました。



照来盆地(新温泉町)

鳥取城攻め

豊臣兄弟ゆかりの人々

戦乱の世を
駆けた戦国武将

秀長の重臣として支えた築城の名手

藤堂高虎

とうどう たかとら
(1556 - 1630)



藤堂高虎が手がけたとされる有子山城の石垣（豊岡市）

藤堂高虎は、近江国出身の戦国武将で、関ヶ原の戦いで徳川家康に味方し、最後は伊勢国の津城主として、32万石の大名になりました。高虎は生涯に7度も主君を変えています。秀長には21歳で仕えてから秀長が亡くなるまで忠義を尽くしており、信頼していたことがうかがえます。但馬平定戦でも活躍し、毛利軍に味方した「小代一揆」の軍勢と激戦を繰り返しました。天正9年(1581)、鳥取城攻めでは羽柴秀長の有力武将として活躍した功績により、養父市大屋町付近で3千石が増え、地元の有力者・栃尾祐善の媒酌で、中野村(香美町香住区)の女性と結婚しました。鳥取城攻めの道中で、秀吉が大屋に立ち寄りたという伝承も残っています。また、有子山城(豊岡市)の石垣整備にも関わったともされ、築城の名手としての才能をこの頃から発揮していたことが想像されます。但馬平定戦は高虎出世の糸口となった出来事、ゆかりの養父市大屋町加保には記念碑が建てられています。

秀長の後任として竹田城代を務める

くわやま しげはる
(1524 - 1606)

桑山重晴



実務型の戦国武将として活躍した桑山重晴。織田信長の重臣であった丹羽長秀や豊田秀吉に仕え、その後、秀長の配下となって、重臣として支えました。秀吉が柴田勝家と織田家の覇権を争った賤ヶ岳の戦いでは、砦の1つを守るなど奮戦し、戦後、秀長が但馬・播磨2カ国を与えられて姫路城に移ると、竹田城には重晴が城主として任じられました。その後、秀長の出世とともに、和歌山城主に任命されるなど重要拠点を担い、信頼を置かれました。

秀吉から弟・秀長と同格と称えられる

くろだ かんべい
(1546 - 1604)

黒田官兵衛

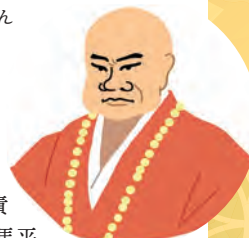


秀吉軍の名軍師として、天下統一に大きく貢献した黒田官兵衛は、播磨国出身の戦国武将です。秀吉の中国平定戦では、居城であった姫路城の本丸を提供するなど、播磨国の平定に尽力しました。その活躍ぶりから、「お前は弟の小一郎(秀長の別名)と同じように心安く思っている」と書かれた秀吉からの書状も残っています。秀長と並んで秀吉軍の最重要人物として重用されました。秀吉が秀長を但馬平定に送り出したのも、官兵衛の存在が大きかったかもしれません。

秀長とともに山陰道の平定に貢献

宮部 継潤

みやべ けいじゆん
(1528 - 1599)



近江国出身の武将で、秀長とともに但馬平定戦に尽力しました。秀長が播磨へ帰還した際は但馬の指揮を任せられるなど、秀吉軍の山陰道方面の責任者として、後の鳥取城攻めでも活躍しました。但馬平定後は、城崎を「豊岡」と改名して豊岡城主となり、現在の豊岡市の礎を築いたとされます。地元の御霊神社は善政を布いた継潤を守護神として祀り、今でも地域の人に愛されています。

秀長が光秀の丹波攻めを援助

明智光秀

あけち みつひで
(1528? - 1582)

戦国随一の智将として知られる明智光秀。織田信長の家臣団で秀吉と双璧をなし、出世を争ったライバルといえます。本能寺の変は戦国時代最大のミステリーとされ、謎多き人物です。信長から丹波国の平定を命令された光秀。第1次丹波攻めでは、黒井城主・赤井直正の攻勢に合い、一度は撤退しますが、2度目の戦いでは、見事、丹波を平定して信長から激賞されます。秀長は竹田城代だった際に、黒井城攻めに援軍として参加し、光秀の丹波平定を助けてました。その後も秀長は信長の命により、丹波北部へ攻め入るなどして活躍。信長や光秀にとっても、秀長は頼りになる武将だったといえます。



豊臣軍を悩ませた海賊衆と山賊衆

奈佐 日本之介

えんや たかきよ

塩治 高 清

なさにほんのすけ

奈佐日本之介は、現在の豊岡市津居山港周辺を根拠として水軍を率い、毛利氏に味方しました。同じく、毛利氏の傘下に入った新温泉町の芦屋城主・塩治高きよとともに、織田信長に反旗を上げ、秀吉から海賊衆・山賊衆として恐れられました。その後、但馬を追われた2人ですが、鳥取城攻めでは、丸山城に日本之助、雁金山城に高きよが入り、最後まで秀吉軍に抵抗しました。



※イラストは全てイメージです。

鳥取城跡



芦屋城跡 (亀ヶ城/諸寄城)

戦国時代、豊臣秀吉に山賊衆と呼ばれた塩治高清の居城。別名「亀ヶ城(かめがじょう)」とも呼ばれています。標高175mの城山に築かれた山城で、日本海を眼前に断崖絶壁に囲まれた天然の要塞です。現在は城山園地として中腹まで車で上ることができ、恋人の聖地にも選ばれた夕日の絶景スポットです。

●新温泉町諸寄/芦屋

芦屋城 (かめがじょう 亀ヶ城/諸寄城)

湯村温泉

美肌の湯として知られる山陰の名湯。源泉「荒湯」からは98度の温泉が絶えず湧き出しています。足湯が整備されている他、湯壺では温泉卵などの湯がき体験が楽しめます。

●新温泉町湯

湯村温泉

ゆのしろ温泉城

おじろ小代一揆



日本一美しい村 小代

藤堂高虎が「小代一揆」を鎮圧する際に激戦地となった場所が、香美町小代区大谷の城山城跡です。現在は歴史公園として整備され、見張り台からは、日本一美しい村に選定されている小代谷の美しい風景が一望できます。周辺には「うへ山の棚田」や滝の名所が点在しています。

●写真はうへ山の棚田/香美町小代区貴田

因幡国



あけのべ 明延鉱山

明延鉱山は大同4年(809)に開坑し、奈良の大仏を作るために銅を献上したと伝わります。豊臣秀吉は中瀬鉱山とともに、八木城主・別所吉治に代官を命じました。近代は日本有数の錫鉱山として栄え、閉山となった現在は探検坑道として公開されています。

●養父市大屋町明延



みこばた 神子畑選鉱場跡

一時は江戸幕府や明治政府、皇室財産として宮内庁の管理下に置かれたこともありましたが、大正時代に選鉱場が建設され、明延鉱山で採掘された鉱石を選鉱しました。

●朝来市佐養1842-1

日本海

176

9

9

482

9

482

312

312

312

429

312

9

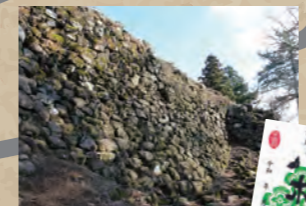
秀長の足跡を辿る

但馬・山陰道の平定



姫路城

播磨国



八木城跡

豊臣時代に築かれた高い石垣をもつ八木城跡は、豊臣秀吉の大名・別所重宗・吉治の2代に渡って城主だった城。標高325mの山頂に本丸を築き、約300mに渡って城砦や、延べ約100mの範囲で石垣を巡らせた山城の遺構です。やぶ市観光案内所で「御城印」を販売しています。●養父市八鹿町八木

記念碑 『藤堂高虎ゆかりの郷』 (養父市大屋町加保)

明延鉱山

神子畑鉱山

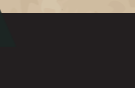
竹田城



岩州城



生野鉱山



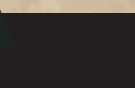
ありこやま 有子山城



岩州城



生野鉱山



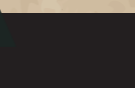
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



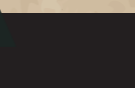
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



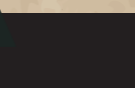
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



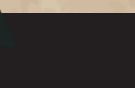
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



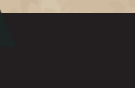
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



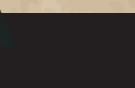
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



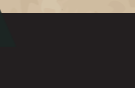
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



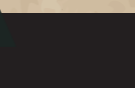
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



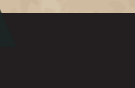
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



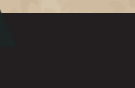
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



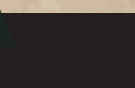
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



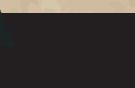
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



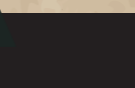
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



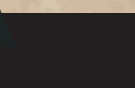
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



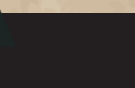
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



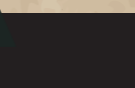
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



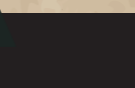
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



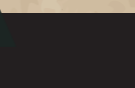
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



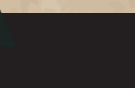
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



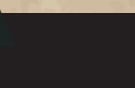
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



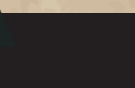
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



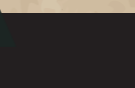
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



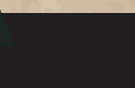
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



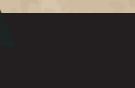
竹田城下町



岩州城



生野鉱山



竹田城下町



岩州城



生野鉱山



ゆかりの地とセットでめぐる

美味しいグルメや
魅力がいっぱい!

おすすめスポット

厳選
グルメ



ブランド和牛 但馬牛のふる里

但馬は神戸牛や松阪牛の素牛として知られる但馬牛のふる里です。極上の但馬ビーフを味わえる料理店が点在しています。

地酒も豊富 但馬杜氏の技

歴史ある酒蔵もあり、日本三大杜氏の但馬杜氏が醸す日本酒もおすすすめです。



11月～3月は冬の味覚 松葉がに漁が解禁

冬の味覚の王者「松葉がに」の水揚げ量も多く、旅館や民宿などで、松葉がにのフルコースが味わえます。



情報館 天空の城



竹田城跡のジオラマや竹田城シアター、資料展示室を設け、竹田城のことを深く知ることができます。また、竹田城跡のバズルを始め、クリアファイル、Tシャツ、カレンダーなどのお土産も充実。ボランティアガイドの受付、観光案内も受け付けています。

* 朝来市和田山町竹田363 079-674-2120

神子畑選鉱場跡



800年頃に開拓された「神子畑鉱山」。明治11年に銀の新鉱脈が発見され、生野鉱山の支山として稼働。明延鉱山で錫が発見されたことにより、東洋一の規模と呼ばれた鉱石の選鉱場が建設されました。現在はシックナーや旧事務舎などの鉱山遺構が見学できます。

* 朝来市佐養(さのう) 1842-1 079-666-8002 (神選)

朝来市

道の駅 但馬のまほろば



但馬の東の玄関口である北近畿豊岡道・山東SAに整備された道の駅。地元を中心とした農家さんから新鮮な野菜やパンが毎日届く産直コーナーを始め、神戸牛にこだわったレストランやフードコート、精肉コーナーも充実しており、但馬の逸品を取り揃えています。

* 朝来市山東町大月92-6 TEL.079-676-5121

道の駅 フレッシュあさご



但馬と播磨を結ぶ播但連絡道路の朝来SAにあり、朝来市の特産品である「岩津ねぎ」発祥の地にあります。岩津ねぎ・鹿肉などで作った特産品を始め、日本海産物、但馬の饅頭・煎餅・クッキー・餅など幅広く取り揃えています。鹿肉を使った食事メニューも評判です。

* 朝来市岩津96 TEL.079-670-4120

あゆ公園



藤堂高虎ゆかりの地にある「あゆ公園」は、大屋川近くにある水と魚の体験施設。水遊びや魚のつかみ取り、釣りなどができます。大屋川の清流の水で育ったあゆは、ログハウス風の休憩所「かわの家」で塩焼きにして食べることも可能。駐車場脇には高虎の記念碑があります。

* 養父市大屋町加保582 TEL.079-669-1822

養父市

出石永楽館



明治後期に開館した近畿最古の芝居小屋。但馬の大衆文化として栄えました。昭和中期に閉館しましたが、2008年に再び芝居小屋として復活。歌舞伎公演から地元の行事まで幅広い活用がされています。一般見学も可能で、映画『国宝』のロケ地として多くの観光客が訪れています。

* 豊岡市出石町柳17-2 TEL.0796-52-5300

豊岡市

道の駅 ようか但馬蔵



北近畿豊岡道・八鹿氷ノ山ICからすぐ、地域から毎日届くフレッシュな果物や野菜、但馬のお土産品など、品揃え豊富な道の駅。特産品の蛇紋岩米や八鹿豚、朝倉山椒などを使ったグルメも楽しめます。足湯もあるので旅の疲れを癒そう。敷地内には観光案内所もあり。

* 養父市八鹿町高柳241-1 TEL.079-662-3200

道の駅 神鍋高原



北近畿豊岡道・日高神鍋高原ICから約15分、道の駅「神鍋高原」は、地元食材を活用したレストランや併設している神鍋温泉ゆとろぎが魅力。また、数多くの地元農産物も販売され、神鍋高原で栽培された作物は、その気候がもたらす寒暖差により美味しさが格別です。

* 豊岡市日高町栗栖野59-13 TEL.0796-45-1331

兵庫県立但馬牧場公園

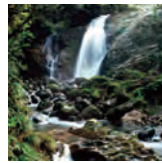


秀吉軍が鳥取城攻めの際に通じたと言われる照来盆地に立地する「但馬牧場公園」。愛宕山の展望台からは照来盆地が一望できます。但馬牛博物館では、但馬牛の歴史や美味しさの秘密などが聞けるガイドも人気。但馬牛が味わえる宿泊施設やレストランも併設しています。

* 新温泉町丹土1033 TEL.0796-92-2641

新温泉町

久須部溪谷



小代一揆の舞台となった小代谷にあり、日本海に注ぐ矢田川の源流のひとつとして、要滝や三段滝など数多くの滝があります。近世の金山の跡地も残っています。滝の麓には、川魚料理などが楽しめる「滝見亭」があります。

* 香美町小代区久須部284 TEL.0796-97-2250 (香美町小代観光協会)

香美町

道の駅 山陰海岸ジオパーク 浜坂の郷



山陰近畿自動車道・新温泉浜坂ICすぐの道の駅。世界に誇る但馬牛の精肉店を始め、新温泉町でとれた農産物、海産物、加工食品などを中心に、但馬の特産品や名産品なども販売しています。但馬牛を手軽に楽しめるレストランの他、そば粉100%の「春来そば」も味わえます。

* 新温泉町栢谷57 TEL.0796-80-9010

道の駅 村岡ファームガーデン



国道9号沿いにある道の駅。但馬牛の原産地にふさわしく、ステーキやハンバーグなど但馬牛のメニューが豊富なレストラン、但馬牛肉の販売や新鮮野菜の販売、お土産コーナーなどがあります。敷地内には観光案内所があるので、香美町の情報収集にも利用できます。

* 香美町村岡区大糠32-1 TEL.0796-98-1129

